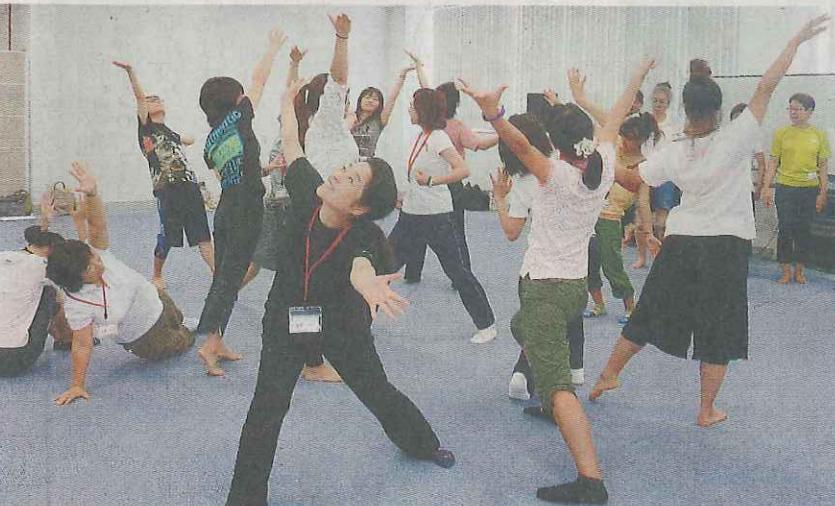


安心なくらしを提案するページです

コミュニケーション能力の向上を目指し、芝居の要素を取り入れたユニークな教育法「ドラマケーション」が注目を集めています。

これまで主に小中学校などで活用されてきたが、就職活動対策などにも用途が広がりつつある。

芝居の要素で表現力アップ



「ドラマケーション」の指導者を養成する講座で、身体表現に取り組む受講生たち
(東京都新宿区)

「必ず誰かの体に触つてくださいね。では、花を表現して。はい、ストップ」。大学生や教員など各地から集まつた20~50代の28人が、集団の中で触れ合いを感じながら身体表現を行う。「オブジェ」に取り組んでいた。

07年ごろ本格化した「ドラマケーション普及センター(東京)」が実施した、「ファシリテーター」と呼ばれる指導者を養成するための認定講座の一場面だ。このほか、4人一组で腕を組んだまま行う鬼ごっこや、共通点を持つ仲間を探すゲームなど、遊びの要素を盛り込んだ多彩なメニューに挑戦していた。

対人能力に磨き

就活対策にも

ドラマケーション

広がる



受講生たちに笑顔が広がる
指導者を養成する講座で、ゲームを楽しむ

「ドラマケーションが本格的に取り組まれるようになったのは2007年ごろ。人間関係の自己アピール力向上が研修で活用したりしている。同センターの講座は07年にスタート。現在互いに認め合う」といふのが特徴だ。名称は、ドラマと「ミュニケーション」の造語。

寺島紀子さん(46)は「ドラマケーションで学んだことを生かして、地元の生徒たちに友達の気持ちを受け止められる力を植え付けたい」と期待を込める。同センター講師の正嘉昭さんは、ドラマケーションの効果について「すべて遊びなので、リラックスでき、集中できる。自分に素直になつて動くことで表現力がアップする」と話す。

注意や余計なアドバイスはせず、本人の意思を尊重するという。正さんは、指導するポイントについて「うまい、下手と評価せずに相手を認めること。認め合することで、つたない表現の中にも面白さや楽しさを、お互いに見つけることができる」と説明している。

約180人がファシリテーターに認定され、気軽に楽しくできる

「受講生で、富山県東部教育事務所に勤める

「受講生で、富山県東部教育事務所に勤める